

2018年 10月 子育てワンポイント

テーマ「 絵本の選び方 」

えほん

子どもの頃は、脳の発達や完成が養われる一番大切な時期、お父さんお母さんそして周囲の人達の語りかけや肌のふれ合い等で、少しずつ言葉や動作を覚え理解を深め、自分で表現できるようになってきます。

このような人としての基礎が育つ時期に、絵本に親しむことはとても大切なことです。



絵本は生後10ヶ月頃から楽しめます。ひとりひとり違いはありますが、赤ちゃんは10ヶ月ころになるとお父さんお母さんの言葉を聞きながら、絵本の世界に入っていけるようになります。子どもの心を豊かに育てるためには、肌の触れ合いと同じように心のこもった語りかけが欠かせません。かつては、お父さんお母さんは心を込めて「こもりうた」をうたったり、あやしことばで話したりすることで、子どもとふれ合ってきました。ところが、最近はどのように話しかけたら良いかわからないといった声を聞きます。そんな時こそ、あかちゃんをひざに抱いて絵本を広げて見てください。ページをめくりながらゆっくり語りかけるように読んであげてください。最後まで話が聞けなくても、好きなページだけしか見なくても大丈夫です。

子どもとかけがえのない時期を楽しもう！ そんな気持ちで読み聞かせを始めてみてください。



一冊の絵本を通して、親子で笑ったり喜んだり、体を寄せ合い気持ちを通わせることで、親子のつながりは深まっていきます。また、子どもたちはお父さんお母さんに絵本を読んでもらうことで、言葉の美しさや面白さを知り、なによりも「言葉を聞く喜び！」を全身で感じ取ります。この時期に感じた心は、無意識のうちに潜在意識として生涯残されることとなります。子どもの日常行動には、限りがありますから未知の経験をさせ、いろいろな絵本を読んで子どもの心にポケットを増やしてあげてくださいね。

